

横綱・白鵬関の筋肉と努力の結晶

2014年 3月30日
テレビ朝日
出張 徹子の部屋 他

モンゴル出身で平成の大横綱・白鵬関(29歳、22歳で横綱になる。奥様は日本人でお子さんは3人)の身長は192cm、体重は158キロ。体重の内、筋肉はなんと115キロ(全体重の73%)だと本人が言っていた。全身これ筋肉。

一般人の筋肉比率の平均は35%、高い人は40%以上だという。

2000年10月に15歳で来日時の体重は60キロ台で相撲部屋の引き受け手はなかった。

失意のもと帰国寸前の大変厳しい体験をしている。



血液型はA型。好物は焼肉と納豆、嫌いなものはあんこ、趣味は読書、チェス、ビデオゲーム。父は5年連続6度の優勝をした元アヴァルガ(大相撲の横綱に相当)で、メキシコ五輪のレスリング重量級銀メダリスト(モンゴル初の五輪メダリスト)となったモンゴル国の国民的英雄である。母は元外科医である。来日前にはバスケットボールに熱心に取り組んでいた。

白鵬関が初めて日本の地を踏んだのは2000年10月、15歳。体重は60キロ台だった。

大相撲で活躍していた同じモンゴル出身の旭鷲山をつてに、2000年10月25日に6人のモンゴル人と共に来日。

大阪府内の摂津倉庫で相撲を習っていた(この会社からは以前、前頭にも上がった大飛翔を輩出)。

小柄だった白鵬を受け入れてくれる部屋は最後までなかった。

少年白鵬は当時日本語が分からなかった為か英語で"I don't want to go back..."と言って泣いたという。その失意の帰国前日12月24日、彼を哀れんだ旭鷲山が自らの師匠の大島(元大関・旭國)と会食中に相談し、大島は友人であった宮城野(元幕内・竹葉山)に受け入れを申し入れた。当時の宮城野部屋は文字通り弱小部屋(ただし、関取を多くを擁した時代もあった。)だった為には厳しいしきりも少なく、育ちの良い白鵬には伸び伸びとやれる環境で結果的に良かったのだとされる。こうした経緯から宮城野が元十両の金親に代替わりしたのちも、熊ヶ谷を襲名して宮城野部屋付きとなった先代宮城野の指導を内弟子として受けた(後に熊ヶ谷は再度宮城野を襲名して白鵬の師匠に復帰する)。

来日6か月後の2001年3月、こうして角界入りとなるものの、部屋の先輩力士に「若くてすらつしている子」という条件で連れてこさせた少年を見た宮城野は、父親の実績を知る由もなく、その小柄な体から大きな期待はしていなかったという。

しかし一方で、大きな手足と腰、柔らかい筋肉などから、もしかしたら化けるかもしれないと思い、入門してからの2か月間は稽古をさせず、毎日吐く程に食べさせ、牛乳を飲ませた。

入門当時身長175cm、体重68kgだった体は、食文化の違いを苦にせず大食漢だったことと熱心な稽古によって大きく成長し続けた。急激な肉体の成長と才能の開花に歩を合わせるかのように番付を駆け上がった。

奥様の紗代さんとは18歳の時に知り合い21歳で大関に昇進したら結婚しようと決めていたという。

2007年2月、大関の時に当時学習院大学に在籍中の学生であった徳島県徳島市出身の和田紗代子と結婚。このとき夫人は第1子を身ごもっており、同年5月10日に第1子(長女)が誕生した。義父は実業家で、元朝青龍全国後援会長の和田友良。

2004年1月場所に新十両に昇進し(18歳)、十両は2場所で通過し、入門からわずか3年での入幕となった。

2004年5月場所で新入幕となる。19歳1か月での新入幕は貴花田(後の横綱・貴乃花)、北の湖、花田(後の大関・貴ノ花)に次ぐ当時史上4位の若さであった(外国人力士としては史上1位の若さ)。その場所、千秋楽まで単独で優勝争いの先頭に立っていた北勝力を立合いの変化で破り、星1つの差で追っていた同じモンゴル出身の横綱朝青龍の「援護射撃」を果たし、自らも12勝3敗の好成績で貴花田の18歳7か月に次ぐ19歳2か月の若さで初三賞(敢闘賞)を受賞した。新入幕での12勝は、15日制になってから歴代3位タイ。

入幕を果たした際には「親方、一番強い人を倒したときの懸賞を持ってきます。待っていてください」と熊ヶ谷親方と約束した。

2004年11月場所11日目、白鵬は朝青龍を送り出して破って初金星を獲得。

その夜、この一番に掛かった懸賞を持って熊ヶ谷親方の前にやってくると、「ここまで来られたのも親方のおかげです。

受け取ってください」と差し出した。この懸賞は熊ヶ谷親方の自宅の居間の一番見えるところに飾ってあるという。

この場所は終盤まで優勝を争い、12勝3敗の好成績で初の殊勲賞を受賞した。

新大関で2006年5月場所は初日から4連勝し、5日目に雅山に突き落としで敗れたがその後は白星を重ねて14勝1敗の好成績を挙げた。本割で唯一負けた雅山との優勝決定戦で、取組前にかいた汗により雅山の突きが滑るという幸運にも恵まれて勝ち、新大関の勝ち星記録更新という快挙も成し遂げて初優勝を果たした。21歳4か月での初優勝は貴乃花、大関、北の湖に次ぐ歴代4位の若さだった。12日目の帰りの車の中で「君が代」を教わり練習し、初優勝を果たした千秋楽では君が代を歌った。優勝パレードの旗手は、兄弟子の光法が務めた。